

会 議 録

会議名	平成27年度第3回市史編さん委員会	
事務局	教育委員会生涯学習課	
開催日時	平成28年2月22日（月）午前10時～11時18分	
開催場所	市役所第二庁舎801会議室	
出席者	委員	出席（根岸委員長・中嶋委員・牛米委員・井上委員・林委員）
		欠席（山本委員）
	事務局	石原課長・高木主事・伊藤主事
傍聴の可否	◎可・不可・一部可	
	傍聴者：なし	
不可の理由		
<p>会 議 次 第</p>		
<p>報 告</p> <p>1 部会の活動報告</p> <p>2 その他の事業</p> <p>(1) 『市史編纂資料第55編 下小金井村鴨下家文書』の発行について</p> <p>(2) 古文書調査委託について</p>		
<p>議 題</p> <p>1 今後の市史編さん事業について</p> <p>(1) 『資料編 近世』の刊行（28年度）について</p> <p>(2) 『資料編 考古』の発行年次について</p> <p>(3) 『通史編』刊行について</p>		
<p>次回の会議日程</p> <p style="padding-left: 2em;">平成28年6月13日（月）</p>		
<p>3 配布資料</p> <p style="padding-left: 2em;">資料1 『小金井市史編さん年次計画』</p> <p style="padding-left: 2em;">資料2 『資料編 現代』細目次</p> <p style="padding-left: 2em;">資料3 『資料編 近世』構成（案）</p>		

会 議 内 容

(委員長) 平成27年度第3回市史編さん委員会を開会する。会議の前にご報告する。小野副委員長が昨年12月22日に81歳で逝去された。ご冥福をお祈りします。

報告1 部会の活動

(1) 近代部会の活動について

(牛米委員) 近代部会では、通史編に向けて勉強会を続けている。資料編で取り上げた資料を中心に改めて調べ直し、月1回報告を行っている。現在5名の調査員が交代で報告している。

(2) 近世部会の活動について

(委員長) 現在、5名の調査員で編集にあたっている。『資料編 近世 (構成案)』(資料3)をご覧いただきたい。11章構成で近世初期から幕末までの流れを史料で位置づけることで編集を進めている。

目次については、史料名(タイトル)だけを並べる従来の市史の構成とは異なり、史料の内容を2・3行の文章で示し、その後に原文を出すという形にして、少しでも市民の方に読んでいただけるよう、また、資料の内容が読めなくても、目次を見ればどんな資料が入っているかが分かる工夫をしたい。特に近世史料は、原文が読めない人が多いので、少しでも市民の方に分かっていたいただけるような資料集にしたい。

(3) 現代部会の活動について

(中嶋委員) 12月に調査員を1名委嘱し、4名体制になった。現在、『資料編 現代』は2校中、最終校正は事務局にお願いしている。表題は原文を尊重し、細目次もそれを反映している。校正作業もほぼ順調にしている。来年度は、通史に向けて活動を行う予定。

(事務局) 資料として『資料編 現代』の細目次を配布した。昭和12年の町制施行から、21世紀が始まる平成13年までの資料を所収した。当初、付表として歴代議員名簿、歳入・歳出決算表を入れることにしていたが、数値が合わないことや、確認ができない点もあり、割愛せざるをえなかった。

(4) 考古部会の活動について

(事務局) 考古部会は、12月23日に正式発足し、1月28日に2回目の部会を開催した。組織は、日高(東京学芸大学准教授)編集委員以下、5名の調査員で構成する。1回目の部会では調査員の分担を決め、第2回の部会では、事務局から小金井市における発掘調査史の概要を報告した。

報告2 その他の事業

(1) 『市史編纂資料第55編 下小金井村鴨下家文書』の発行について

(事務局) 現在、第二校を行っている。

(2) 古文書調査委託について

(事務局)引き続き「梶野家文書」の筆写を委託で実施している。

(委員長)市史編纂資料は、これまで55編と長く続いており、今回の近世資料集の編さんに役立っている。今回の市史編さん事業が終わっても、資料集の発行を継続していただきたい。

(3)古文書講座について

(事務局)古文書講座は、平成11年度から行っている。今年度の講師は、近世部会の調査員の太田和子さんと、文化財センターで3回実施する。

議題1 今後の市史編さん事業について

(1) 『資料編 近世』の刊行(28年度)について

(事務局)まだ、詳細な編集計画は決まっていないが、28年度末までに発行することになっているので、よろしくお願ひしたい。

(委員長)構成は、11章立てで、1章70頁前後で分担しながら、資料を集めながら、部会を開いて検討している。

1章では、17世紀に野川沿いの村が開発され、その後、はけの上の原野が開発されていく。野川沿いに田んぼ、台地の上に広大な畑がつくられていく時代の資料。2章では、18世紀の享保改革で幕府の政策で新田がつくられていくが、そこでできた景観や新しい村の様子。引き寺の問題や栗林をつくって江戸城に上納するといった新しい状況が生まれた時代の資料。3章では、一般的な近世の村の状況を資料で見せながら、一方で、トレースした絵図で村の景観がわかるようにしたい。4章では、人々の村の生活の中でどんな文書がつけられたかといった資料。5章では、年貢等の負担の他に江戸城との関係で特殊な負担があったこと。6章以下は、18世紀の後半から19世紀の初めに村が次第に近代に近付いていく時代。農間余業と呼ばれる商業や手工業ができてくる。一方で、村の中で金融が動いていく中で、貧富の差がでてくること。更に災害対策等。7章では、周辺の村々との関係が深まっていく様子。小金井桜も、『小金井桜編』と重複しないようにしながら取り上げたい。8章では、19世紀(幕末期)の問題が資料的に中心となるが、家がどのように維持されたか、村人の一生が文書にどのように現われるかを見たい。9章では、信仰や旅・遊楽等を通じて、人々の視野が広がっていくこと。10・11章では、教育・文化的にも視野が広がり、幕末から近代へ移行していく時代の資料。

資料編は、基本的に通史を意識しながら考えているが、それを資料で位置づけることを全体の構成としている。なるべく、市民にわかってもらうため、他市の市史ではあまりしない工夫で小金井市の特色を出したい。史料集にはよく「綱文」といわれるものがある。『東京市史稿』や『大日本史料』も、史料の最初に2・3行の綱文があって、次に史料が並んでいる、「綱文」の例は、古代・中世史料集にはあるが、多摩地域の近世資料集ではまだ例がない。1章の「綱文」の例をあげたので、説明する。(資料3参照・説明省略)。単に何年の年貢割付とタイトルを付けて並べるよりも、「綱文」をつけることにより資料の注目される場所がわかるような工夫をしたい。ただ、資料編全体の体裁の統

一はとりたい。

(中嶋) 網文は目次から使うのか。

(委員長) 場合によっては、変えるかもしれないが、今のところ、目次から網文を入れたい。

(井上委員) 変化や特徴がわかっていい。

(委員長) 近世部会の報告については、よろしいか。

議題2 『資料編 考古』の発行年次等について

(事務局) 考古部会から、資料調査に時間がかかるため、29年度の『資料編 考古』の発行は困難であり、30年度に延期できないかとの要望があった。また、資料編の版型について、A5版では挿図や写真が小さくなり、見にくいので、B5版かA4版にできないかとの意見が出されている。

(委員長) 考古部会から『資料編 考古』の発行を30年度に延期できないかということと、一回り大きな版型でできないかとの意見が出ているとの報告があったが、意見はあるか。

(委員長) 『資料編 考古』を31年度刊行に延期することはできないか。最終年度で全てやってしまう必要があるか。先ず、通史を書いてもらって、それから資料編を発行することはできないか。『通史編』の発行年度は動かせないから、30年度に2冊出すことは、事務局体制からみても無理ではないか。

(林委員) 私もそう考える。

(石原課長) 市史編さんの職員体制は、大綱に基づき30年度までになっているので、30年度の早い時期に『資料編 考古』を刊行させて、30年度中に『通史編』の発行を考えている。

(委員長) 大綱の見直しができないか考えていただきたい。『通史編』の場合大変な作業で、資料編とは違った用意が必要。委員の希望としては、よりよい市史を作りたいので、市史編さん大綱の見直しも必要ではないか。

(石原課長) この大綱も一度改訂している、その時に、現状を踏まえて議会へも報告しているので、また、延ばすことになる、財政的保障ができるか、議会説明がクリアーできた上で、見直しということになるので、この場では決定できないことをご了解願いたい。

(委員長) 考古部会が発足した時点で、スケジュール変更を検討すべきではなかったか。

(林委員) 事務的には、難しい手続きではない。変更は可能と思う。

(石原課長) 『通史編』は30年度に終わるので、一応約束は果すことができる。『資料編 考古』だけ、一年延ばすことができないか。印刷だけを31年度に伸ばすことも考えられる。

(林委員) ここでは結論は出せないから、市史編さん委員会の意見を踏まえて、事務局と当局とで検討して欲しい。

(委員長) 本日、委員会から出た意見を当局に伝えて欲しい。

次に、『資料編 考古』の版型を大版にすることについてはどうか。市史には

番号が振ってあるか。

(事務局) 番号は付けていない。最近の他市の考古編は、大判が多く、箱入りでなく、くるみ表紙も見られる。

(委員長) 『通史編』はA5版だから、版型の異なる『資料編 考古』が31年度に出ても違和感はない。版型を大きくすることに異論はないか。

『資料編 考古』の刊行年度と版型の変更について、了解とすることによるか。

(各委員) 異議なし

(委員長) 『資料編 考古』は、旧石器時代から中世までが対象とのことだが、中世は板碑等の文字資料を載せるのか。

(事務局) 文字資料は、板碑のほか、調査員に中世の文献史料の研究者がいるので、金井原合戦関係の文書史料も入れることにしている。

また、今回の市史には自然編がないが、考古部会で自然環境(地形・地質)を記述したいと考えている。

(委員長) 自然環境は、通史でも最初に必要である。ただし、資料編で扱う自然と通史で扱う自然とは差別化の工夫をしたほうがよい。

(委員長) 奈良・平安・鎌倉・室町期の通史は、考古部会で担当するのか、あるいは、新たな執筆委員をお願いするのか。

(事務局) 考古部会の調査員に、文献史学の先生がいるので、考古部会で中世までの通史の記述ができると考えている。

(委員長)

なおさら、30年度に2冊を刊行することは難しいと思う。

また、近代の戦争遺跡をどう扱うか。また、その所在を確認することができないか。いくらかでも、市史の中に痕跡が残せばいいと思う。近代・現代でも文献史料は出てくるが、考古資料的にできないものか、戦争遺跡・遺物を扱うことは、現在の市史編さんでは避けられない問題。今後の課題として検討して欲しい。

(中嶋委員)

陸軍技術研究所の塀や地下道が残っていると聞いている。

(事務局)

陸軍技術研究所については、過去に関係者から聞き取り調査を行っているが、今回の資料編には入れることができなかった。また、『皆木日記』も割愛せざるを得なかった。今後、市史編纂資料などで発刊を考えたい。

文化財との関連では、石造物の所在調査もできている。また、閻魔王坐像の造立年代が明らかになるなど新たな事実がわかってきた。

(委員長) 『資料集 近世』に石造物を入れることは考えていない。信仰の中で触れることができるが、石造物は、全域を調査してみないと位置づけることは難しい。今回は文献史料を中心としたい。

(事務局) 考古部会で、近世の講椀組合の陶磁器類や近代の除隊記念盃等を取り上げたらどうかという意見が出された。

(委員長) 考古部会については、部会が発足したこと、いろいろな発想で考古学の成果を活用して欲しいという意見があったということによろしいか。

(牛米委員) この委員会に、考古部会長も出席することによろしいか。

(事務局) 市史編さん委員会条例では、学識経験者3名となっており、学識者枠では委員になれない。

(根岸委員長) 牛米委員・中嶋委員は、部会長という認識で出席しているので、考古部会長もこの委員会に出席してもらったらどうか。

(事務局) 考古部会長の委員会出席については、事務方で検討させていただきたい。

(委員長) 考古部会長が出席できる方向で検討願いたい。

(3) 『通史編』の刊行について

(事務局) 『通史編』発行に向け、構成、頁割りなど編集方針について、28年度の早い段階で決めていただきたい。

(委員長) 来年度中に、通史を考え、編集委員だけではなく、調査員をあわせた会議をもったらどうか。

(事務局) 部会の合同会議と理解したらよろしいか。

(中嶋委員) 全調査員が書くべきものがあるので、出席できない人を含め全員に短いレジュメを提出してもらって、全体像を出す方法もある。

(牛米委員) 原始・古代・中世・近世・近代・現代がそろったから、通史のおおまかな割り振りをし、あとはどう中身を具体化するかという問題が各部会にまかされているので、その上で、共通してこれが後ろでどうなるみたいなことで、部会間の調整等具体的なことが出てくる。

(中嶋委員) まずは編集委員が集まる会議をして、各部会に持ち帰って調査員に伝えることによろしいか。編集委員会議の開催は、市史編さん委員会の後ではどうか。

(委員長) 編集委員会議を夏休み前には行いたい。

(林委員) 前回の委員会でも、通史編に向けたスケジュールを早く作るように要望した。重ねて事務局に日程調整をお願いしたい。

(井上委員) 通史の発刊を楽しみにしている、よろしく願いたい。

(委員長) 議題の審議はこれによろしいか。

次回の会議日程

平成28年6月13日(月) 予定